

(再評価)

資料 2 - 2 - ①  
関東地方整備局  
事業評価監視委員会  
(平成24年度第4回)

# 利根川総合水系環境整備事業 (利根川・江戸川環境整備)

平成24年10月22日  
国土交通省関東地方整備局

# 利根川総合水系環境整備事業 (利根川・江戸川環境整備)

## 再評価資料

### 目次

|    |                 |    |
|----|-----------------|----|
| 1. | 利根川下流部・江戸川流域の概要 | 1  |
| 2. | 事業の目的           | 2  |
| 3. | 事業の概要           | 3  |
| 4. | 費用対効果の分析        | 12 |
| 5. | 評価の視点（再評価）      | 19 |
| 6. | 都県への意見聴取        | 20 |
| 7. | 今後の対応方針（原案）     | 20 |

# 1. 利根川下流部・江戸川流域の概要

- ・利根川は、群馬県利根郡みなかみ町のおおみなかみやまの大水上山に水源を発し、幹川流路延長322km(うち利根川下流域の流路延長は約87km)、江戸川は野田市関宿付近で利根川から分派した流路延長約60kmの一級河川です。
- ・利根川下流域の河川空間は年間220万人以上の人々に利用されています。我孫子市・取手市等市街地周辺では、散策・スポーツ等の利用が多く、香取市周辺では舟運を活用した観光や祭りが行われています。また、河口域では、湿地や干潟などの多様な自然環境と生物がみられ、水利用は、農業用水を始め、水道用水、工業用水の貴重な水源となっています。
- ・江戸川は、都市部の貴重なオープンスペースとして散策やスポーツ等で年間900万人以上の人々に利用されています。また、江戸川の水は、首都圏に住む約1,000万人が水道水として利用しています。

| 利根川下流   |                                 |
|---------|---------------------------------|
| 流域面積    | : 約1,320km <sup>2</sup> (利根川下流) |
| 流路延長    | : 約87km (利根川下流)                 |
| 沿川市町村   | : 2県14市町                        |
| 沿川市町村人口 | : 約91万人                         |

| 江戸川     |                       |
|---------|-----------------------|
| 流域面積    | : 約200km <sup>2</sup> |
| 流路延長    | : 約60km               |
| 沿川市町村   | : 1都3県13市区町           |
| 沿川市町村人口 | : 約300万人              |



①利根川:河口部(銚子市)



②利根川:河口堰周辺



③利根川:下流部(香取市)



④江戸川:下流部(江戸川区)



⑤江戸川:東京都金町浄水場(葛飾区)



⑥利根運河(流山市)

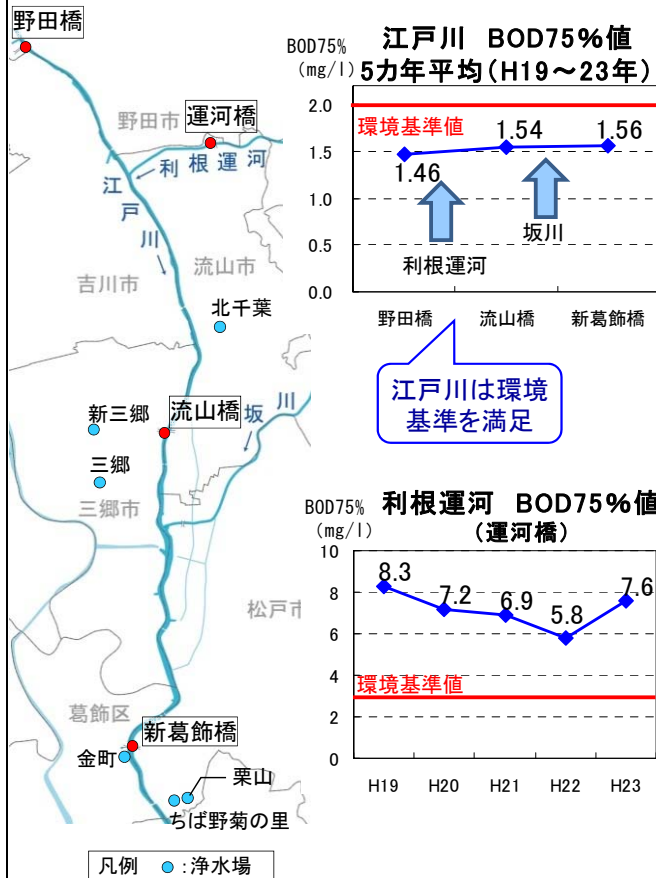


# 2. 事業の目的

|      |  |
|------|--|
| 水環境  | (利根運河)環境基準値を超過している利根運河の水質を改善します。   |
| 自然再生 | (利根川)乾燥化・外来種の侵入が進行しているヨシ原や干潟、ワンド、河岸を保全・再生する対策を実施します。<br>(江戸川)侵食により減少したヨシ原や干潟を創出・復元する対策の実施、特定外来種の駆除、魚介類の移動環境において唯一の障害となっている江戸川水閘門に簡易魚道を整備します。<br>(利根運河)魚介類の遡上が難しい河道内落差を改善します。 |
| 水辺整備 | (利根川・江戸川)都市部の貴重なオープンスペースとして、スポーツや散策の利用者が多い河川敷や水際へのアクセスの向上を目的に、誰もが容易に利用できる水辺を整備します。   |

## 水環境 (江戸川)

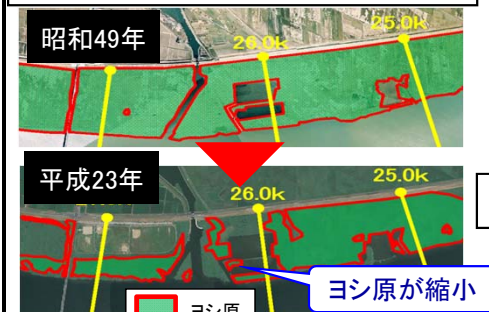
江戸川は環境基準値を満足していますが、利根運河は環境基準値を上回っており、水環境改善対策が必要な状況です。



## 自然再生 (利根川・江戸川)

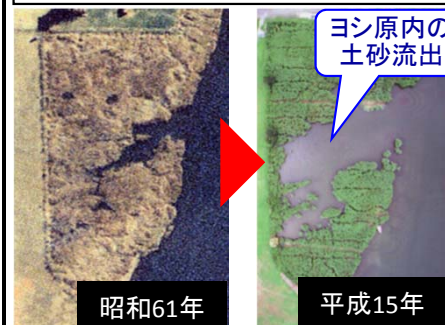
利根川や江戸川の水辺環境・魚介類の移動環境について、対策が必要な状況です。

### 利根川下流のヨシ原・干潟が減少



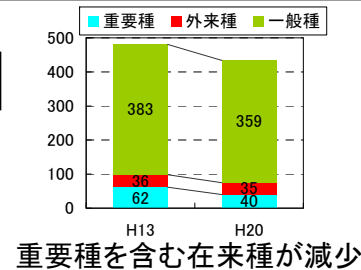
乾燥化等により多様な生物の生息・生育環境であるヨシ原や干潟が減少

### 江戸川・江戸川放水路のヨシ原・干潟の変化



船舶による航走波により河岸が侵食され、ヨシ原や干潟の面積が減少

### 江戸川の外來種



### 江戸川水閘門



魚道が無いいため、江戸川水閘門付近に魚が滞留

### 利根運河の落差



落差が大きく、魚類の遡上 が難しい状況

## 水辺整備 (利根川・江戸川)

安全に水辺利用するため、対策が必要な箇所があります。

### 利根川下流の佐原地区



### 江戸川の水辺







# 3. 事業の概要 (2) (事業の進捗状況)

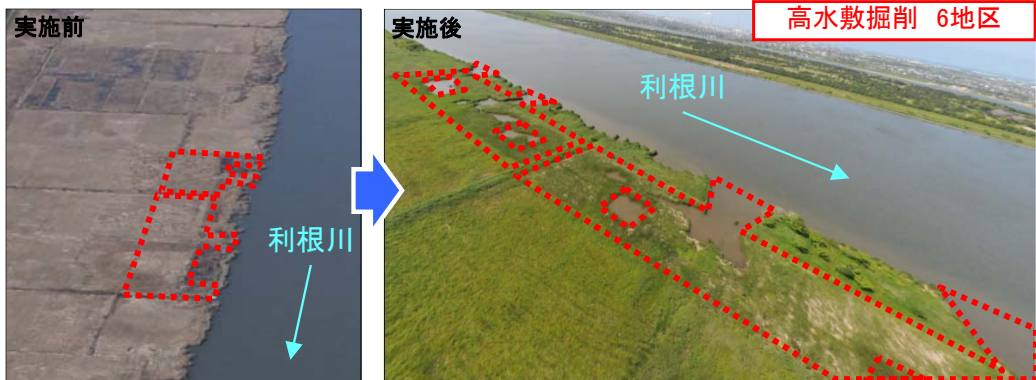
前回再評価 (H21年度) 以降の主な整備箇所の状況は以下の通りです。



| No. | 個別事業名          | 事業内容   | 単位             | 数量    |        |        |         |
|-----|----------------|--------|----------------|-------|--------|--------|---------|
|     |                |        |                | 全体計画  | H21年度末 | H24年度末 | 前回からの進捗 |
| ①   | 利根川下流部中水敷整備    | 高水敷掘削  | 地区             | 9     | 3      | 9      | 6       |
| ③   | 坂川地区水環境改善対策    | ポンプ整備  | 基              | 1     | 1      | 1      | 0       |
|     |                | 河川横断管路 | 箇所             | 1     | 1      | 1      | 0       |
| ④   | 利根運河水環境改善対策    | 底泥浚渫   | m <sup>3</sup> | 5,800 | 3,200  | 4,500  | 1,300   |
| ⑥   | 江戸川特定外来種対策検討   | 外来種駆除等 | 回              | 9     | 7      | 9      | 2       |
| ⑦   | 江戸川下流部水辺環境創出対策 | 湿地     | m <sup>2</sup> | 9,700 | 0      | 9,700  | 9,700   |
| ⑧   | 江戸川水閘門緊急魚道対策検討 | 呼び水ポンプ | 箇所             | 3     | 0      | 3      | 3       |
| ⑩   | 佐原広域交流拠点整備     | 平場     | m <sup>2</sup> | 5,600 | 5,600  | 5,600  | 0       |
|     |                | 護岸     | m              | 140   | 140    | 140    | 0       |
|     |                | 湿地     | ha             | 9.4   | 9.4    | 9.4    | 0       |
| ⑬   | 江戸川環境整備        | 坂路・階段  | 箇所             | 68    | 34     | 37     | 3       |

※赤書き: H21以降に整備した内容

①利根川下流部中水敷整備



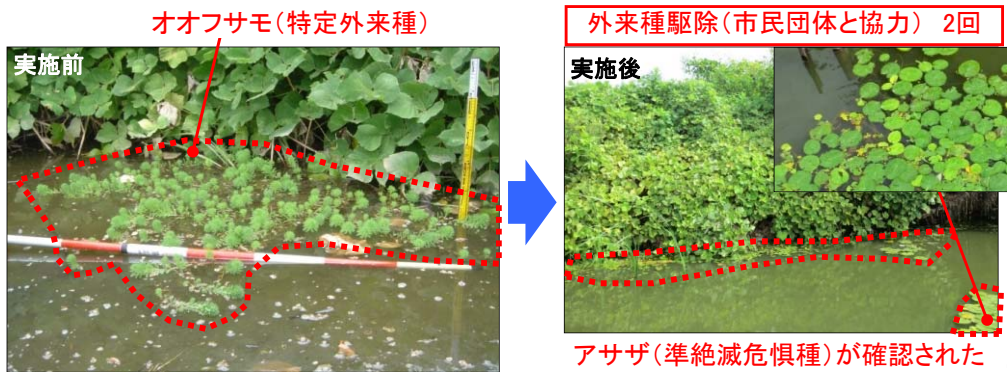
④利根運河水環境改善対策



③坂川地区水環境改善対策



⑥江戸川特定外来種対策検討





# 3. 事業の概要 (3) (事業の進捗状況)

前回再評価 (H21年度) 以降の主な整備箇所の状況は以下の通りです。

## ⑦江戸川下流部水辺環境創出対策

**事業実施箇所**

江戸川  
行徳可動堰  
H23整備  
H24整備

**湿地創出 9,700㎡**

**実施前**  
裸地化したヨシ原  
江戸川

**実施後**  
江戸川

## ⑧江戸川水閘門緊急魚道対策

**魚介類の遡上経路**

江戸川水閘門  
江戸川

**モニタリング調査 (H23)**

ポンプ下流を岸沿いに遡上するアユ

魚類の遡上経路  
呼び水ポンプ

※赤書き: H21以降に整備した内容

## ⑩佐原広域交流拠点整備

**実施前**

**実施後**

※施設整備はH21年に完了

## ⑬江戸川環境整備

**事業実施箇所**

江戸川  
流山橋・武蔵野線間  
矢切の渡し周辺  
寅さん記念館周辺

**実施前**

**実施後**

坂路整備 3箇所  
矢切の渡し周辺



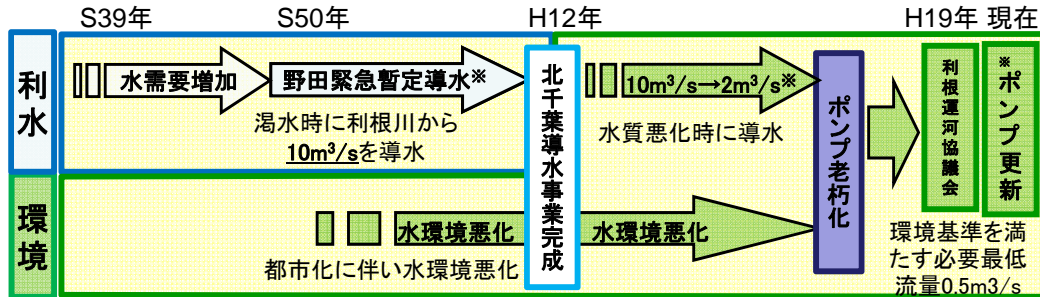
# 3. 事業の概要（4）（水環境）

## 利根運河（④利根運河水環境改善対策）

- ・利根運河周辺における自然や歴史と調和した美しい地域空間の実現に向けて、行政関係者、有識者、住民の代表により「利根運河協議会」を平成19年に設立し、翌年平成20年に目標及び具体施策、各主体の役割分担を定めた「利根運河エコパーク実施計画」を策定し、国、自治体、住民による様々な取り組みを開始しました。
- ・この施策の1つとして、利根運河の水環境改善を図るため「利根川からの導水」と「浚渫」を行います。
- ・「導水」による水質、流量の改善、また「浚渫」による泥の巻き上げの減少により、良好な生物の生息環境や河川空間の形成が期待できます。

《利根運河とは》利根川の豊かな水を利用して、舟運のために、明治23年に開削された利根川と江戸川を結ぶ人工河川。

### ＜利根運河利用の経緯＞



※利根川の河床低下によりポンプで導水を実施

### 利根運河協議会の取り組み

主な目標：三者が一体となって協力し、良好な利根運河の環境整備を図る。

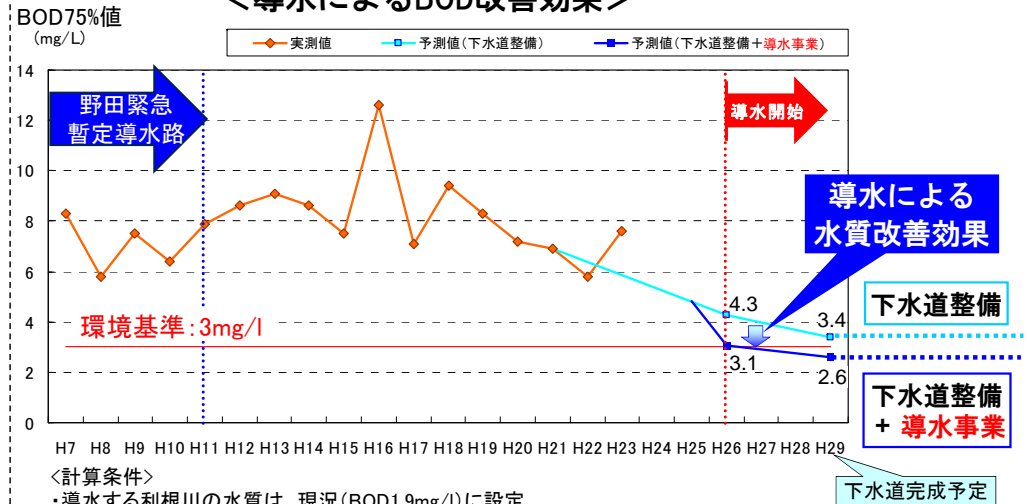


合併浄化槽の整備



自治体による下水道整備

### ＜導水によるBOD改善効果＞



### ＜淀んだ利根運河の様子＞



### ＜浚渫の状況＞

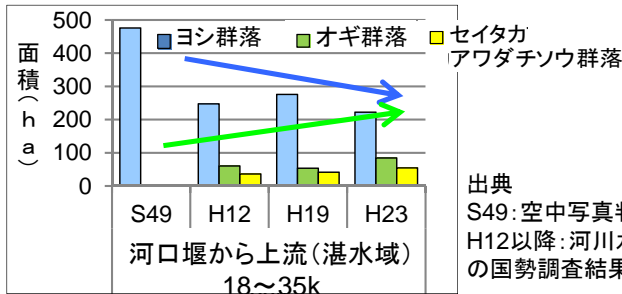
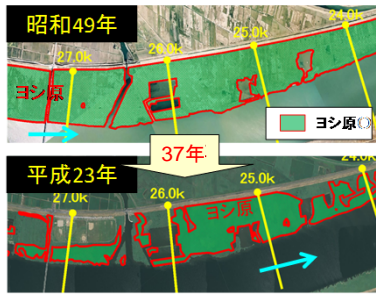




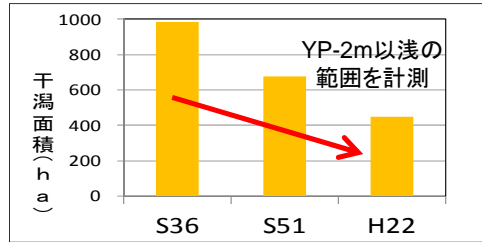
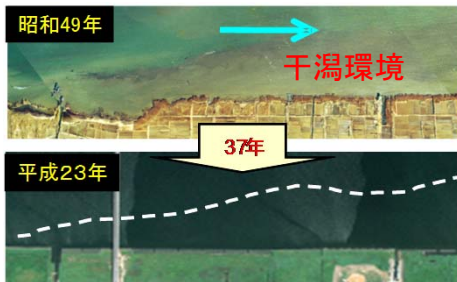
# 3. 事業の概要 (5) (自然再生)

## 利根川 (5)利根川下流自然再生

- ・広大なヨシ原面積が減少しています。
- ・広大な干潟が減少しています。

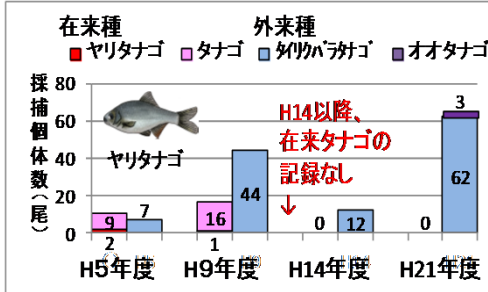
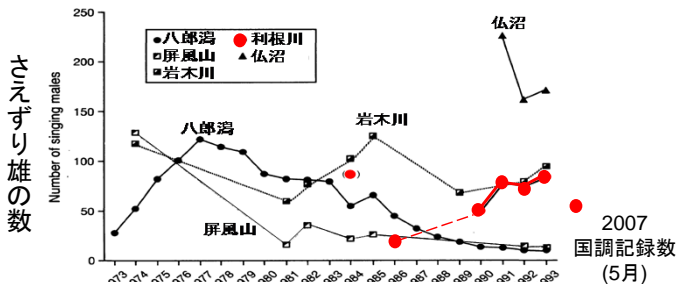


＜ヨシ原面積の減少＞



＜干潟面積の減少＞

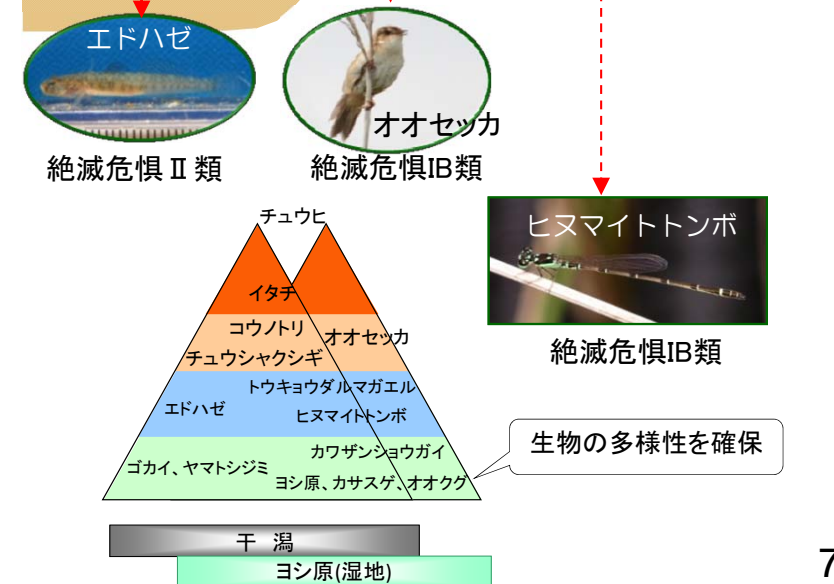
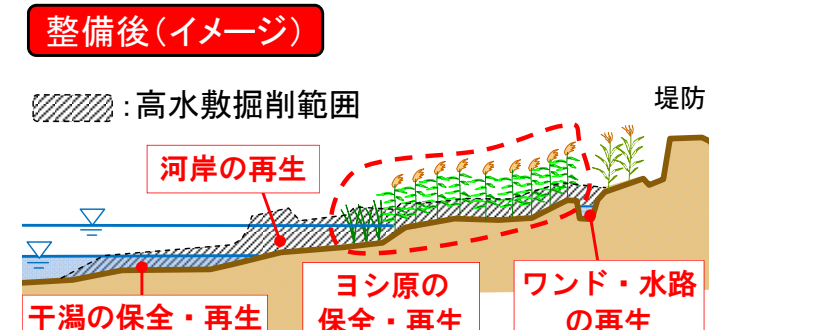
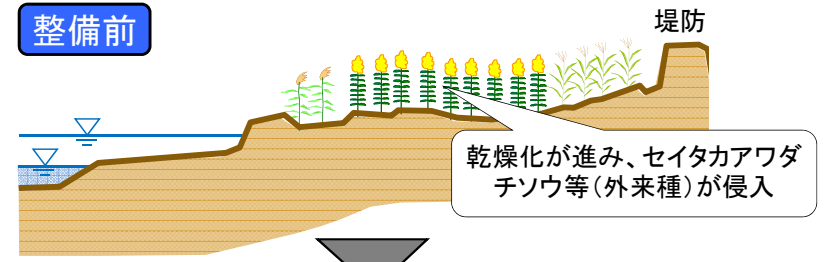
- ・ヨシ原の減少は、ヨシ原環境に依存するオオセッカやヒヌマイトトンボの生息に影響する懸念があります。
- ・在来タナゴが減少し、外来タナゴが増加しています。



在来タナゴの減少と外来タナゴの増加

ヨシ原、干潟等の保全・再生

- ・湿地環境(ヨシ原・干潟)の保全・再生、河岸やワンド等の再生により、利根川下流における生物多様性の確保が期待できます。



世界的希少種であるオオセッカやヒヌマイトトンボ、エドハゼなどの生息環境の保全・再生が急務となっています。

# 3. 事業の概要 (6) (自然再生)

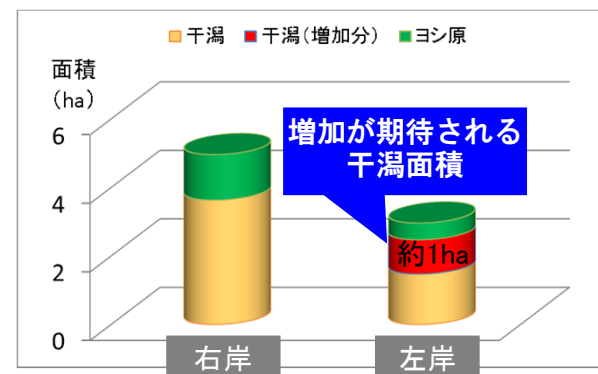
## 江戸川放水路(⑦江戸川下流部水辺環境創出対策)

- ・江戸川放水路左岸では航走波の影響によりヨシ原や干潟が侵食され、生物の生息環境が少ない状況です。
- ・消波工を設置することで、河岸侵食の防止とともに、ヨシ原・干潟が創出・復元され、自然豊かな水辺空間が形成されることが期待できます。
- ・左岸に整備してある消波工の背後では、ヨシ原・干潟が保全されています。
- ・干潟では、トビハゼ(重要種)や、ハマシギなど干潟特有の生物の生息が確認されており、生息環境の拡大が期待できます。



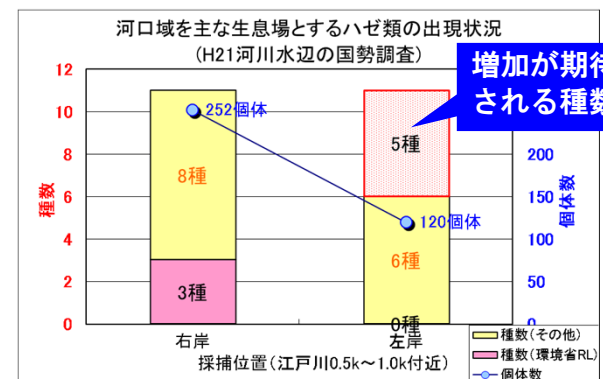
### 《整備により期待される効果》

#### ＜干潟・ヨシ原の面積＞



消波工の設置によって、左岸でも干潟面積の増加が期待できる

#### ＜干潟の生物生息状況＞



干潟を創出することにより、干潟特有の生物の生息環境拡大が期待できる

### 左岸の様子



消波工がない地点では  
背後のヨシ原・干潟が侵食されている



消波工がある地点では  
背後にヨシ原・干潟が保全されている

### トビハゼ



- ・準絶滅危惧種
- ・分布の北限地が江戸川放水路
- ・干潟に生息



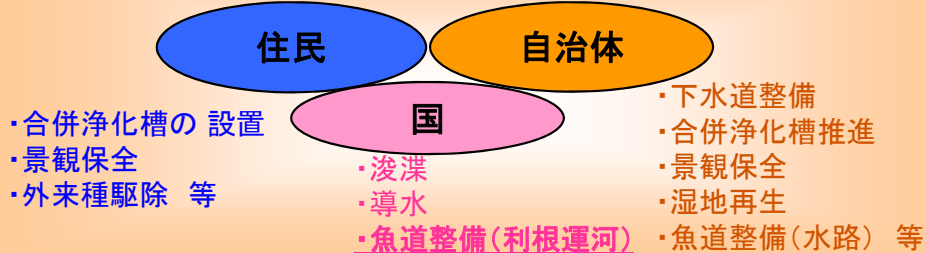
# 3. 事業の概要 (7) (自然再生)

## 利根運河 (利根運河環境整備)

- ・利根運河の自然環境、周辺の湿地環境等を保全再生するため、行政関係者、有識者、住民の代表により「利根運河協議会」を平成19年に設立し、翌年平成20年に目標及び具体施策、各主体の役割分担を定めた「利根運河エコパーク実施計画」を策定し、国、自治体、住民による様々な取り組みを開始しました。
- ・この施策の1つとして、魚介類の移動の障害となっている「落差の解消」を行い、水域の連続性の確保を行います。
- ・「落差工の解消」により、魚介類の移動範囲が広がり、利根運河とその周辺水路、湿地における生物の生息環境の向上が期待できます。

### 利根運河協議会の取り組み

主な目標：三者が一体となって協力し、良好な利根運河の環境整備を図る。



### 利根運河エコパーク実施計画

生物生息環境目標： 落差工解消による水域の連続性の確保

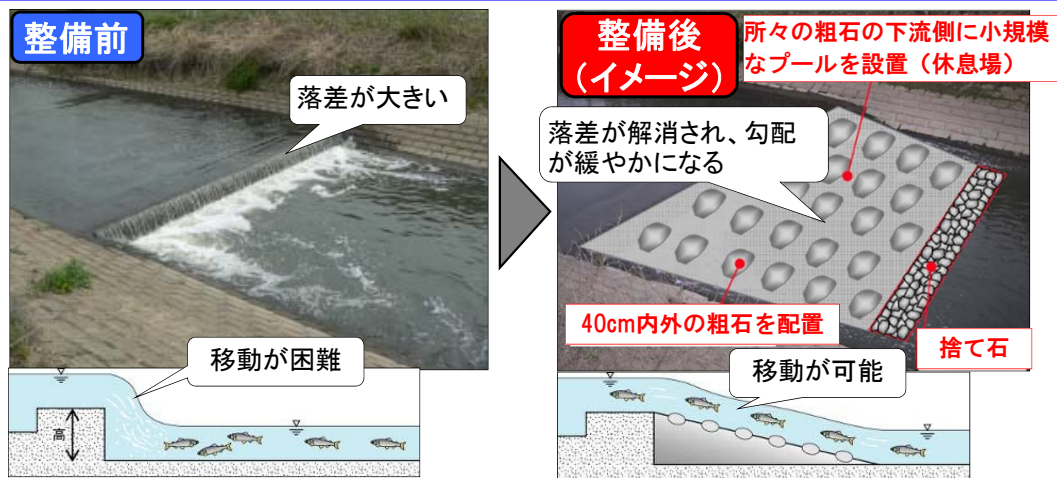


自治体による水路と水田の連続性確保

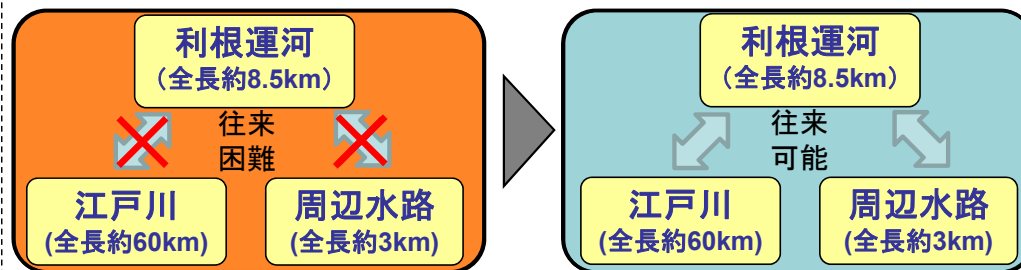


自治体による魚道整備(水路)

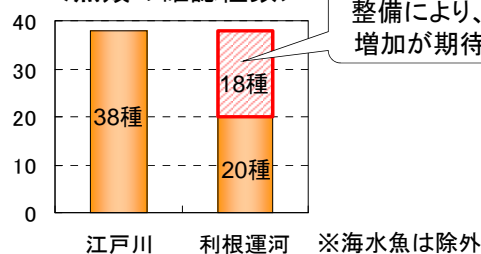
### 《落差解消箇所》



### 《整備により期待される効果》



### ＜魚類の確認種数＞



### 増加が期待される魚類

ウナギ、ゲンゴロウブナ、トウヨシノボリ、ヌマチチブ、ナマズ、マルタ等



# 3. 事業の概要 (8) (水辺整備)

## 利根川 (⑩佐原広域交流拠点整備)

誰もが安全・快適に利根川下流の水辺を利用できるようになります。

整備前



水際に草木が繁茂して、子供や高齢者の方が、水辺を利用しにくい

整備後



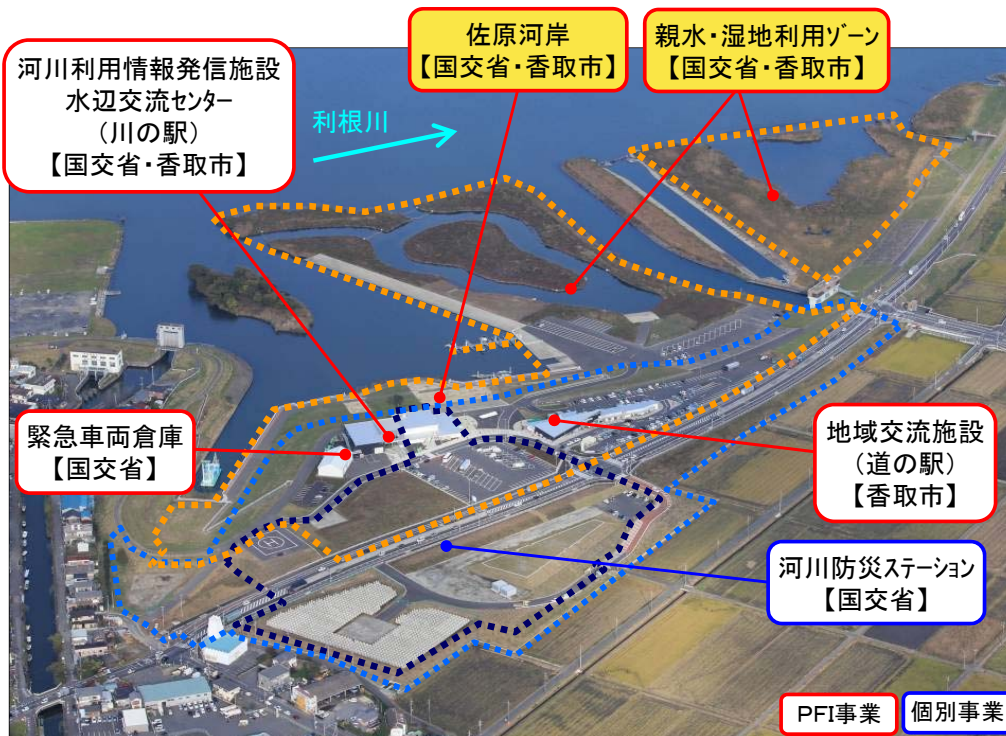
柵や舗装路ができたことにより、誰もが利根川へ安全・快適に近づくことができる



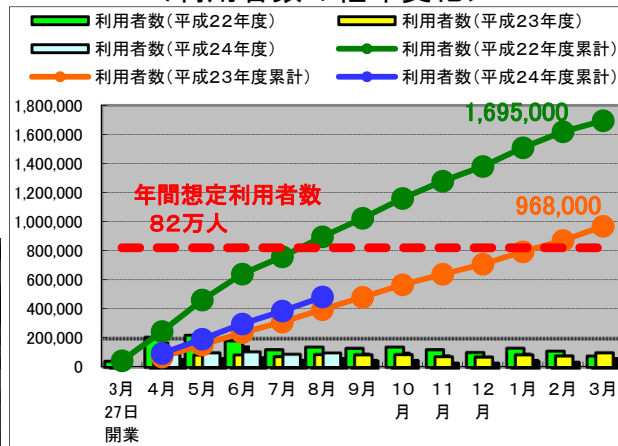
スロープができたことにより、誰もが安全・快適に水辺を利用しやすくなる。

## (参考)佐原広域交流拠点整備PFI事業

佐原広域交流拠点の整備は国交省、香取市が共同で、PFI事業を活用して実施しました。



### <利用者数の経年変化>

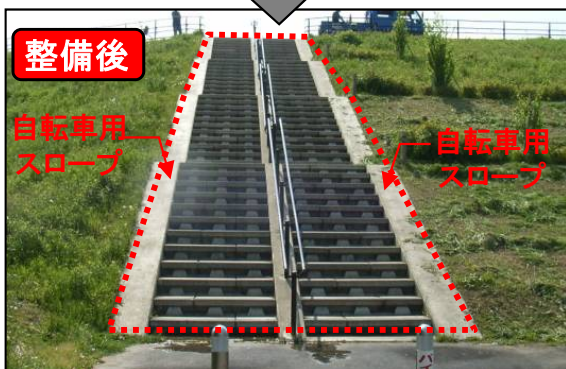




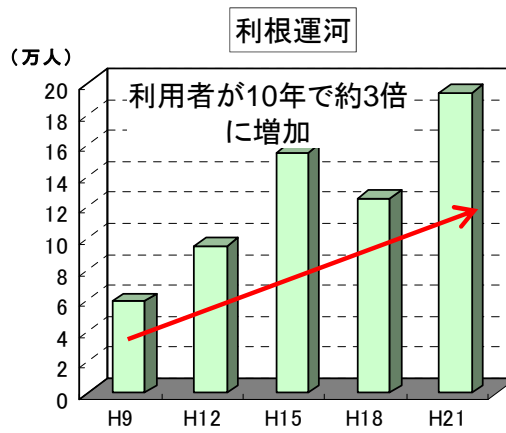
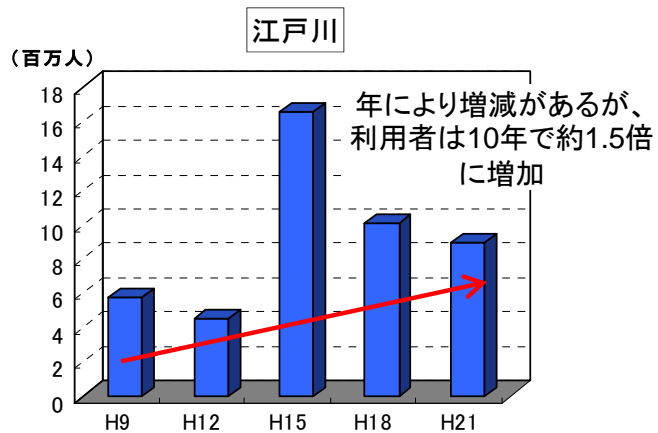
# 3. 事業の概要 (9) (水辺整備)

## 江戸川・利根運河 (16江戸川環境整備)

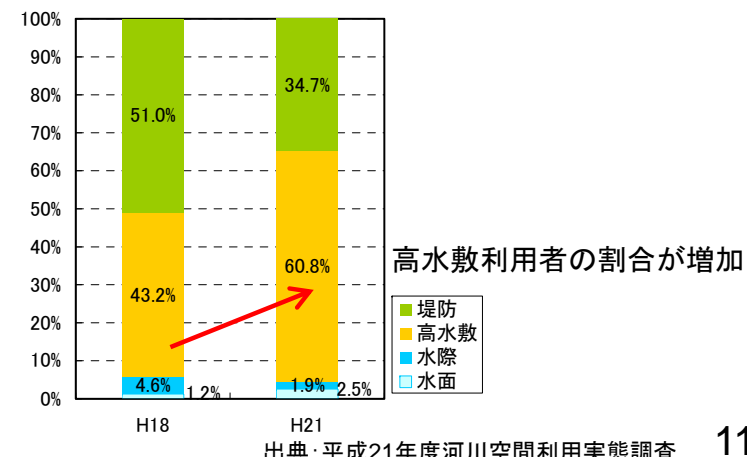
誰もが容易に江戸川や利根運河にアクセスでき、安全に水辺を利用できるようになります。



<江戸川と利根運河における利用者数の経年変化>

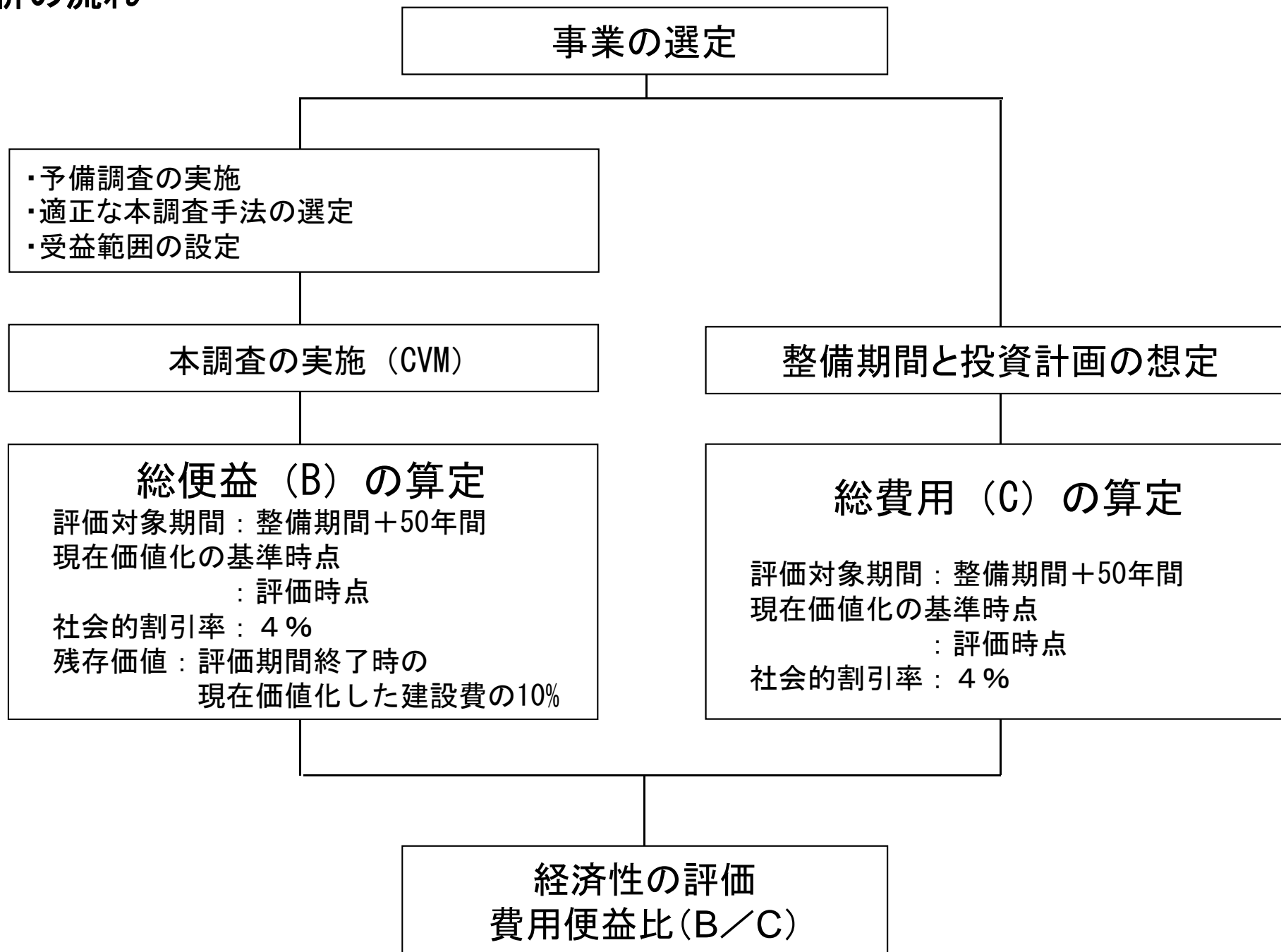


<場所別利用者数割合>



# 4. 費用対効果の分析 (1)

## ●分析の流れ





# 4. 費用対効果の分析 (2) (水環境)

## ●受益範囲の設定

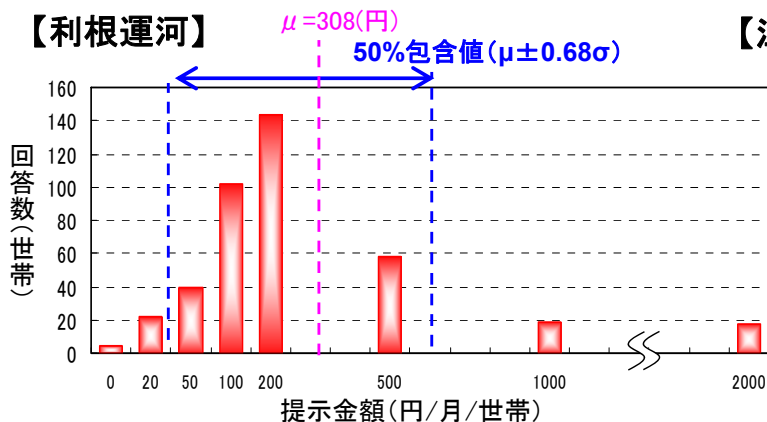
### (江戸川) 予備調査の結果、受益範囲は2kmに設定

- ・事業ごとに想定される水質改善効果の影響範囲に合わせ、利根運河は全川、江戸川と坂川は江戸川・坂川清流ルネッサンス事業箇所から下流として、坂川整備箇所から平常時締め切っている行徳可動堰までを対象としました。
- ・予備調査(アンケート)より、事業に対する認知率の変化点がみられる2kmの幅を受益範囲として設定しました。

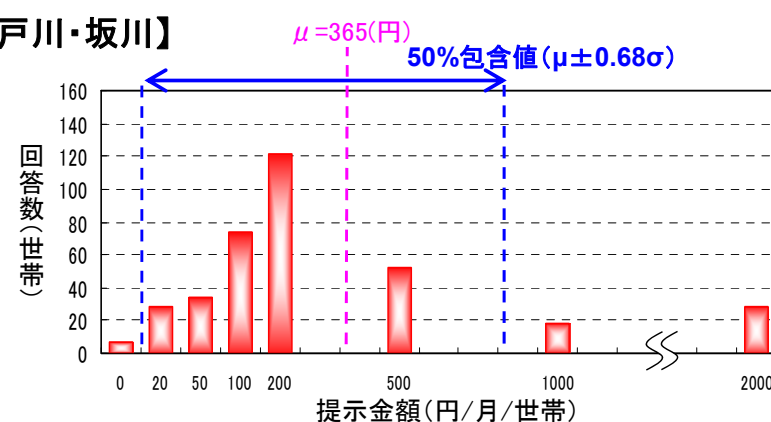
### ●本調査アンケートの結果

(注):本グラフは、アンケート(提示金額)に対し各世帯が回答(賛同)した最高金額を支払い意志額の最大値とみなし(※)分布表示。

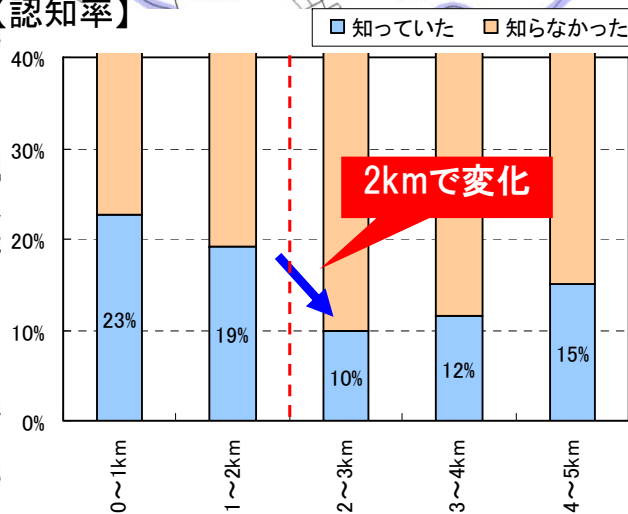
#### 【利根運河】



#### 【江戸川・坂川】



#### 【認知率】



μ : (※)の総和を回答数で除した値、支払い意思額(WTP)とは異なる。



● ←→ 事業実施箇所(区間)

# 4. 費用対効果の分析 (3) (自然再生)

## ●受益範囲の設定

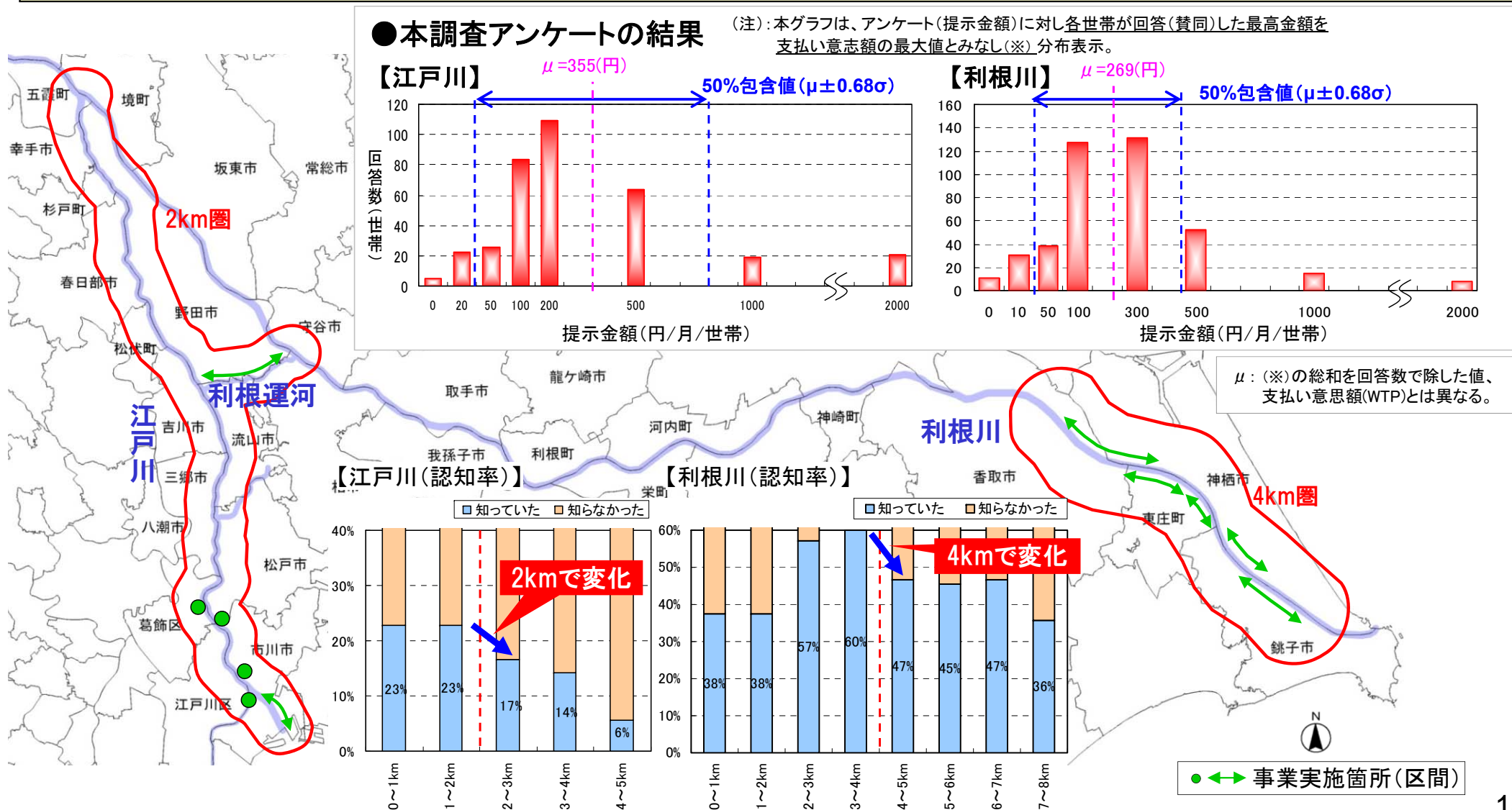
### (利根川) 予備調査の結果、受益範囲は4kmに設定

・予備調査(アンケート)より、事業に対する認知率の変化点がみられる4kmの幅を受益範囲として設定しました。

### (江戸川) 予備調査の結果、受益範囲は2kmに設定

・魚道整備により魚介類が新たに移動しやすくなる予定の利根運河と江戸川全川を対象としました。

・予備調査(アンケート)より、事業に対する認知率の変化点がみられる2kmの幅を受益範囲として設定しました。





# 4. 費用対効果の分析 (4) (水辺整備)

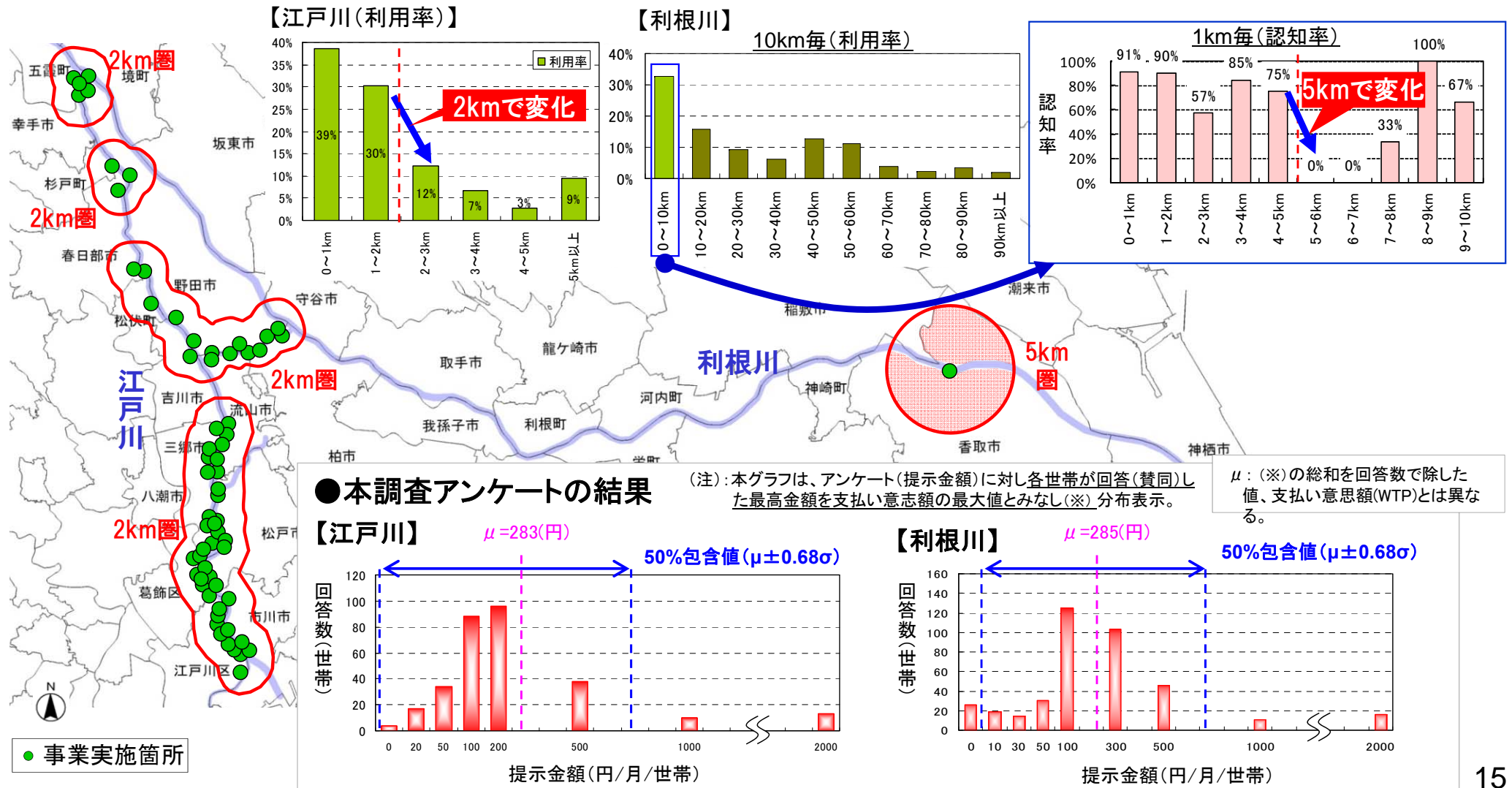
## ●受益範囲の設定

(利根川) 予備調査の結果、受益範囲は5km(旧佐原市区内)に設定

- ・予備調査(現地調査)より、佐原地区の利用者の利用率と認知率の変化点がみられる5km(旧佐原市内)の幅を受益範囲として設定しました。

(江戸川) 予備調査の結果、受益範囲は2kmに設定

- ・予備調査(現地調査)より、江戸川を利用する人の利用率の変化点がみられる2kmの幅を受益範囲として設定しました。
- ・各整備箇所から2km圏を対象としました。



# 4. 費用対効果の分析（5）

## ●B/Cの算定

### ◆総便益（B）

- 沿川住民を対象としたCVMアンケートにより支払い意思額（WTP）を把握。
- WTPから年便益を求め、評価期間を考慮し、残存価値を付加して、総便益を算定。

### ◆総費用（C）

- 事業に係わる建設費と維持管理費を計上。

## ●各事業における支払い意思額

※支払意思額(WTP)の算定については(資料2-2-②参照)。

| 項目                           | 水環境              |                 | 自然再生            |                 | 水辺整備                                |                              |               |
|------------------------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------------------------------------|------------------------------|---------------|
|                              | 江戸川・坂川           | 利根運河            | 利根川下流           | 江戸川・利根運河        | 利根川下流                               | 江戸川・利根運河                     |               |
| 評価時点                         | 平成24年            |                 |                 |                 |                                     |                              |               |
| 評価期間                         | 整備期間+50年間        |                 |                 |                 |                                     |                              |               |
| 受益範囲                         | 認知率の変化点である2kmの幅  | 認知率の変化点である2kmの幅 | 認知率の変化点である4kmの幅 | 認知率の変化点である2kmの幅 | 利用率(利用者の居住範囲の割合)と認知率の変化点である整備地区5km圏 | 利用率(利用者の居住範囲の割合)の変化点である2kmの幅 |               |
| 集計対象                         | 配布数              | 1700票           | 1700票           | 1700票           | 1700票                               | 1700票                        |               |
|                              | 回答数<br>(回答率)     | 523票<br>(31%)   | 588票<br>(35%)   | 553票<br>(33%)   | 527票<br>(31%)                       | 535票<br>(31%)                | 553票<br>(33%) |
|                              | 有効回答数<br>(有効回答率) | 363票<br>(69%)   | 405票<br>(69%)   | 414票<br>(75%)   | 350票<br>(66%)                       | 391票<br>(73%)                | 300票<br>(54%) |
| 支払い意思額<br>(WTP) ※<br>月・世帯当たり | 465円             | 406円            | 384円            | 468円            | 400円                                | 373円                         |               |



## 4. 費用対効果の分析（6）

|           | 水環境  | 自然再生 | 水辺整備  |
|-----------|------|------|-------|
| ①建設費      | 24億円 | 25億円 | 85億円  |
| ②維持管理費    | 6億円  | 1億円  | 17億円  |
| ③総費用(①+②) | 30億円 | 26億円 | 102億円 |

※建設費・維持管理費は、社会的割引率（4%）及びデフレーターを用いて現在価値化を行い費用を算定。

| 総便益（B） | 水環境   | 自然再生  | 水辺整備  |
|--------|-------|-------|-------|
|        | 527億円 | 413億円 | 486億円 |

※アンケート結果による支払い意思額（WTP）に受益世帯数、賛成率を乗じ、年便益を算定。

※年便益に評価期間（50年）を考慮し、残存価値を付加して総便益を算定。

※施設完成後の評価期間（50年間）に対し、社会的割引率（4%）及びデフレーターを用いて現在価値化を行い総便益を算定。

※残存価値は、評価終了時点における現在価値化した建設費の10%を計上。

| 費用便益比<br>（B/C） | 水環境  | 自然再生 | 水辺整備 |
|----------------|------|------|------|
|                | 17.8 | 16.1 | 4.8  |

### ■利根川・江戸川環境整備の費用便益比(B/C)算定結果

$$\begin{aligned}
 B/C &= \frac{\text{便益の現在価値化の合計} + \text{残存価値}}{\text{建設費の現在価値化の合計} + \text{維持管理費の現在価値化の合計}} \\
 &= \frac{1,426 \text{ 億円}}{157 \text{ 億円}} = 9.1
 \end{aligned}$$

## 4. 費用対効果の分析（7）

### ●費用対効果分析条件等の比較

- ◆総便益は、水環境が利根川の1件がH24年度完了に伴い変更。江戸川の水環境が水質改善効果の影響範囲に合わせ、受益範囲を縮小。
- ◆総費用は、水環境が利根川で1件がH24年度完了し、自然再生事業で利根川で1件、江戸川で1件新規事業を追加し、江戸川の水辺整備事業から一部を評価対象外とした。

| ●水環境   | 前回(H21)再評価時 | 今回(H24)再評価時 | 変化及びその要因      |
|--------|-------------|-------------|---------------|
| 工期     | 平成13年～平成27年 | 平成13年～平成25年 | ・頁3No.①がH24完了 |
| B/C    | 6.4         | 17.8        | ・便益の増加による     |
| 総便益(B) | 225億円       | 527億円       | ・WTPの増加       |
| 総費用(C) | 35億円        | 30億円        | ・頁3No.①がH24完了 |
|        | <43億円>      | <34億円>      |               |

| ●自然再生  | 前回(H21)再評価時 | 今回(H24)再評価時 | 変化及びその要因           |
|--------|-------------|-------------|--------------------|
| 工期     | 平成19年～平成32年 | 平成19年～平成37年 | ・新規事業(頁3No.⑤)による   |
| B/C    | 15.6        | 16.1        | —                  |
| 総便益(B) | 221億円       | 413億円       | ・WTPの増加            |
| 総費用(C) | 14億円        | 26億円        | ・新規事業(頁3No.⑤、⑨)による |
|        | <17億円>      | <33億円>      |                    |

| ●水辺整備  | 前回(H21)再評価時 | 今回(H24)再評価時 | 変化及びその要因   |
|--------|-------------|-------------|------------|
| 工期     | 平成7年～平成36年  | 平成7年～平成36年  | —          |
| B/C    | 3.6         | 4.8         | ・便益の増加による  |
| 総便益(B) | 361億円       | 486億円       | ・WTPの増加    |
| 総費用(C) | 100億円       | 102億円       | ・頁3No.⑮の中止 |
|        | <122億円>     | <110億円>     |            |

< > : 現在価値化前の建設費+維持管理費



# 5. 評価の視点（再評価）

## ①事業の必要性等に関する視点（事業の投資効果）

### 1) 事業をめぐる社会経済情勢等の変化

- ・利根川および江戸川は、流域住民にとって、水道水等の貴重な水源であるとともに、自然環境が残り、多様な水辺利用を楽しめる貴重な空間であり、利根川および江戸川の水質改善、自然環境の保全・再生、誰もが安心して水辺や自然とふれあう事のできる施設整備の必要性はますます高まっている。
- ・本事業を推進することにより、利根川及び江戸川の持つ水と緑豊かな河川環境への親しみがさらに生まれ、河川空間がより身近なものとなることで、地元自治体や住民からの期待は高まると考えられ、本事業の必要性は変わりなく、事業投資効果も見込まれる。

### 2) 事業の投資効果

| 平成24年度評価時                      | B / C | B（億円） | C（億円） |
|--------------------------------|-------|-------|-------|
| 利根川総合水系環境整備事業<br>（利根川・江戸川環境整備） | 9.1   | 1,426 | 157   |

## ②事業の進捗状況・事業の進捗の見込みの視点

- ・事業の進捗は、現在66%（事業費）であり、今後の実施の目処、進捗の見通しについて特に大きな支障はない。また、地元からも河川整備の促進要望を受けている。
- ・今後も事業実施にあたっては、社会情勢等の変化に留意しつつ、自治体と施工区分等の確認を行うとともに、地元との調整を十分に行い実施する。

## ③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・新技術の採用や新たなコスト縮減の可能性を探りつつ、総コストの縮減を図る。また、各施設の効率的・効果的な運用方法を検討し、耐久性の高い素材の活用、維持管理しやすい構造を採用するなど維持管理におけるコスト縮減を図る。

## 6. 再評価における都道府県・政令市への意見聴取

- ・再評価における都道府県の意見は下記の通り。

| 関係都県 | 再評価における意見  |
|------|--|
| 東京都  | 都市化が著しい首都圏において、江戸川下流部は、多様な水辺利用が楽しめ、豊かな自然が存在する貴重な空間である。良好な河川環境の保全・再生に向けて、地元との調整やコスト縮減を十分行いながら、河川環境整備事業を継続されるようお願いする。                          |
| 埼玉県  | 利根川・江戸川において沿線住民や大規模自転車道を利用する人などが安心して水辺を利用できるようにする水辺整備事業は「川の国埼玉」を目指す本県にとって重要な施策であると考えている。利根川総合水系環境整備事業については、引き続きコスト縮減に十分留意し、着実に事業を進めていただきたい。  |
| 千葉県  | 利根川・江戸川は、貴重な自然環境と、県民の生活に潤いをもたらす水環境を有しています。今後も、沿川住民の水辺空間利用がより一層、促進されるよう環境整備事業の継続を要望します。   |
| 茨城県  | 利根川・江戸川は首都圏に広がる貴重な水辺空間であり、利根川下流部のヨシ原や干潟については、乾燥化による面積の減少や外来種の進入が著しく、その保全・再生が必要であることから、本事業の継続を要望する。更なるコスト縮減を図るとともに、地元の意見に配慮しながら、事業を進めていただきたい。 |

## 7. 今後の対応方針（原案）

- ・利根川や江戸川は、水道水等の貴重な水源であると共に、流域のなかで貴重な自然環境が残り、多様な水辺利用が楽しめる貴重な空間であり、沿川自治体からも河川環境整備の促進要望も高いことから、引き続き水環境の改善、自然環境の保全及び河川利用の促進を図る必要があります。
- ・本事業は、継続が妥当と考えます。